

注：指示があるまで開けないで下さい。

総合防犯設備士資格認定試験

第一次試験(筆記方式)

C 専門問題 (必須)	
出題	3 問
時間	150 分
配点	1 問 100 点・合計 300 点

受験番号	— —
氏 名	

注意事項

1. 座席は指定されています。受験番号を確認して着席して下さい。
2. 机の上には「受験票」「筆記用具」以外のものは置かないで下さい。
3. **受験番号・氏名は、はっきりと記入して下さい。別紙図面にも受験番号・氏名を記入して下さい。**
4. 解答は、設問にしたがって記入して下さい。
5. 「試験問題」・「解答用紙」は試験終了後すべて回収します。
6. 試験時間内に退席される場合は、試験問題・解答用紙を机の上に置き試験官の許可を得て静かに退席して下さい。
ただし、試験開始後30分、および試験終了前10分間は退席できません。
退席後、試験会場近辺では、静かにお願いします。
7. 試験会場においては、試験官の指示にしたがって下さい。



C 専門問題（必須）

C 問題－1（セキュリティについて）

安全で平和な生活と組織活動の継続を確保するためには、適切で明解な行動の基となるセキュリティポリシーの策定が重要な鍵となる。

総合防犯設備士として組織活動上の防犯対策を提案する場合には、セキュリティポリシーの考え方や手法を参考にすることが望まれる。以下の問1から4の空欄に答えを記せ。

問1. セキュリティポリシー策定の目的を解答欄①にならって、四つ記せ。

【解答欄】

①	教育・訓練などを通じて関係者のセキュリティ意識(セキュリティアウェアネス)の高揚を図る。
②	
③	
④	
⑤	

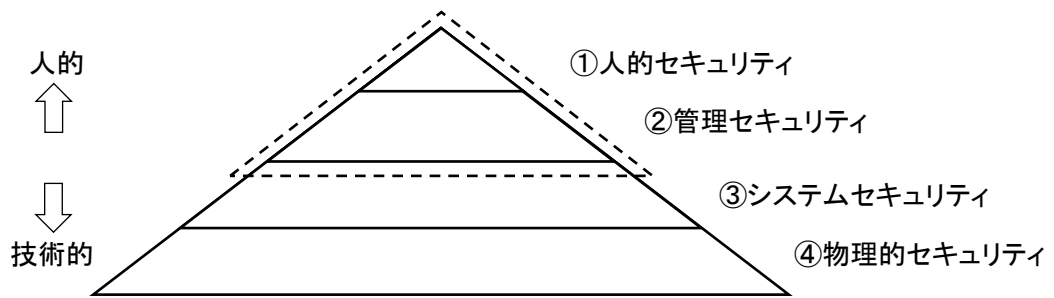
問2. セキュリティポリシー策定上の留意点を解答欄①にならって、四つ記せ。

【解答欄】

①	一部の部署だけでなく、全組織体制で作成する。
②	
③	
④	
⑤	

次頁に続く

問3. セキュリティポリシー策定の大事な考え方の構成を図にすると次のようなピラミッド型となる。それぞれの階層を構成するものを解答欄①にならって、各々二つ以上記せ。



【解答欄】

①	労務管理、倫理管理、遵法管理、セキュリティ意識(セキュリティアウェアネス)の高揚
②	
③	
④	

問4. セキュリティポリシーの文書化に際して配慮する点を解答欄①にならって、四つ記せ。

【解答欄】

①	簡単・明瞭にする。
②	
③	
④	
⑤	

C問題-2 (防犯設備の設計 1/6)

本設計の対象施設は、業務拡大に合わせて計画している地方の中核都市に立地する広告代理店の社屋である。建物は中心街のはずれの幹線道路沿いに計画している。この広告代理店は当地域では最大の大手で、地域の企業を顧客として手広く活動している。顧客の中には同一業種の顧客も多々ある。

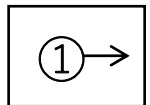
<設問>

以下の条件をもとに侵入警報システムと防犯カメラシステムを設計し、各々の機器一覧表、系統図及び全体の設備図を作成せよ。ただし、防犯カメラシステムは機器配置図とし、配線は不要とする。

なお、出入管理システムは今回の検討範囲外とする。

作成においては以下とする。

- ① 侵入警報システムの設備図には図記号を使い、使用する図記号は機器一覧表に記入する。
- ② 防犯カメラシステム設備図上のカメラの記号は、○内にカメラ番号を記入し、撮影方向を右図の要領で表し、カメラ番号は機器一覧表に対応していることとする。
- ③ 防犯カメラシステムの系統図に使用する図記号は、機器一覧表に記入する。
- ④ カメラでの撮影はメガピクセル画像で撮影するものとし、カメラには必要な機能を備えたものとする。



なお、カメラの機器一覧表においてカメラの必要機能を明示する。ただし、不要な機能を付加した場合には減点対象となる。

<前提条件>

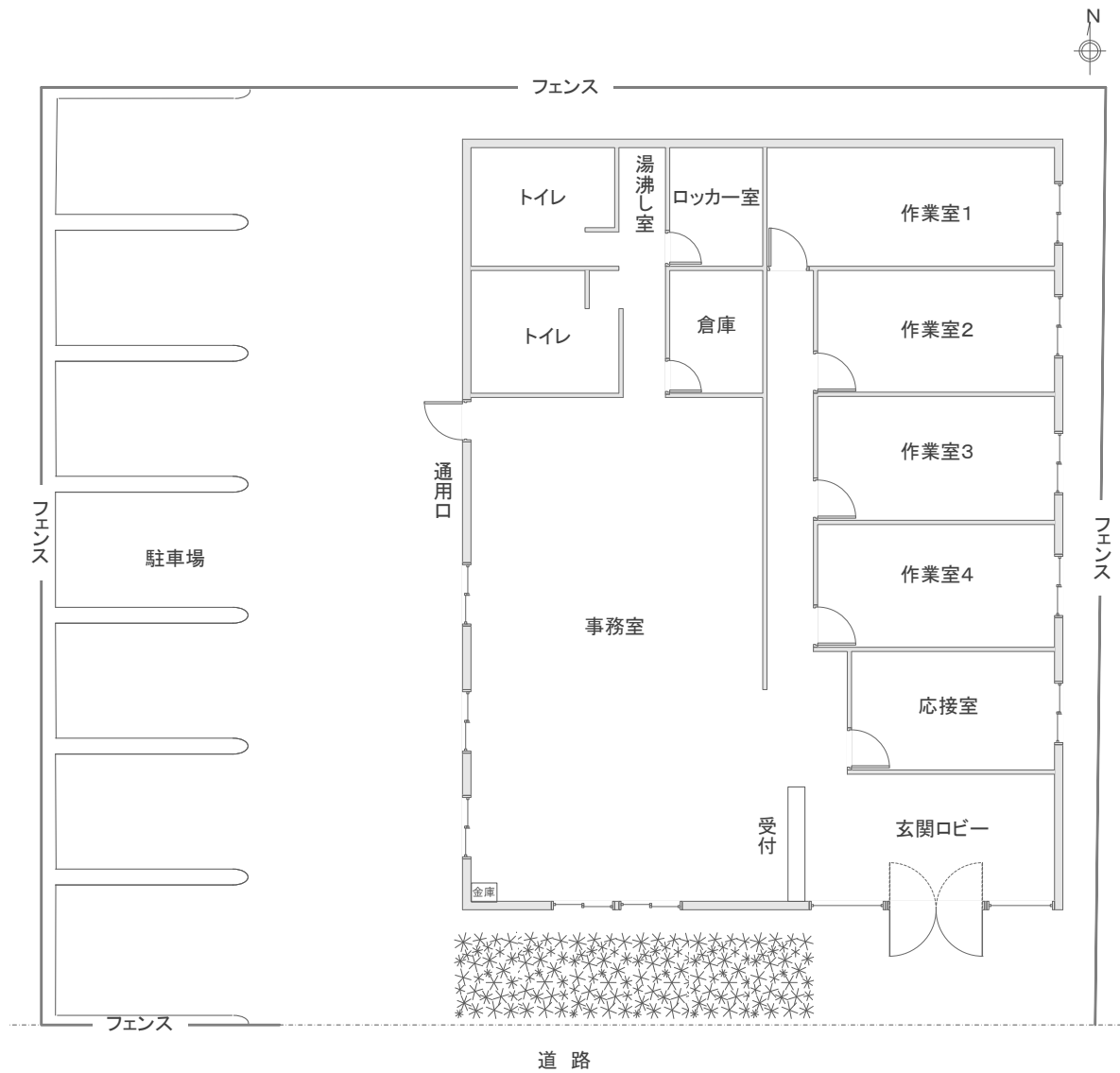
1. 依頼主の意向の確認結果

- ・ 周辺は事務所や商店が立地しており、事務所荒しや出店荒しが散見される。侵入窃盗により事務機器の窃取や客先情報が流失することを防ぐため、侵入があったら検知し威嚇するとともに関係者に通報したい。
- ・ 上記の犯罪の抑止のため、人の出入りの記録を残したい。
- ・ 駐車場は社用車及び顧客車両用のもので、関係者以外の駐車を監視したい。
- ・ 依頼主の顧客には同業種の顧客が多々あるため、顧客の依頼内容が他に同業者に漏れることがないように担当者を替え、かつ作成作業は各々別室で行うなどの環境を作りたい。
- ・ 同上の配慮が間違いなく実行されていることの記録を残したい。
- ・ 事務所の運用は、安全の確保のため社員通用口は常時施錠とし、玄関扉は朝夕社員が施錠及び解錠をする。

次頁に続く

C問題-2 (防犯設備の設計 2/6)

2. 平面図



3. 防犯設備

- ・侵入警報システムの警報制御盤は、10回線のものを使用する。
- ・防犯カメラシステムのレコーダーは、8回線のものを使用する。

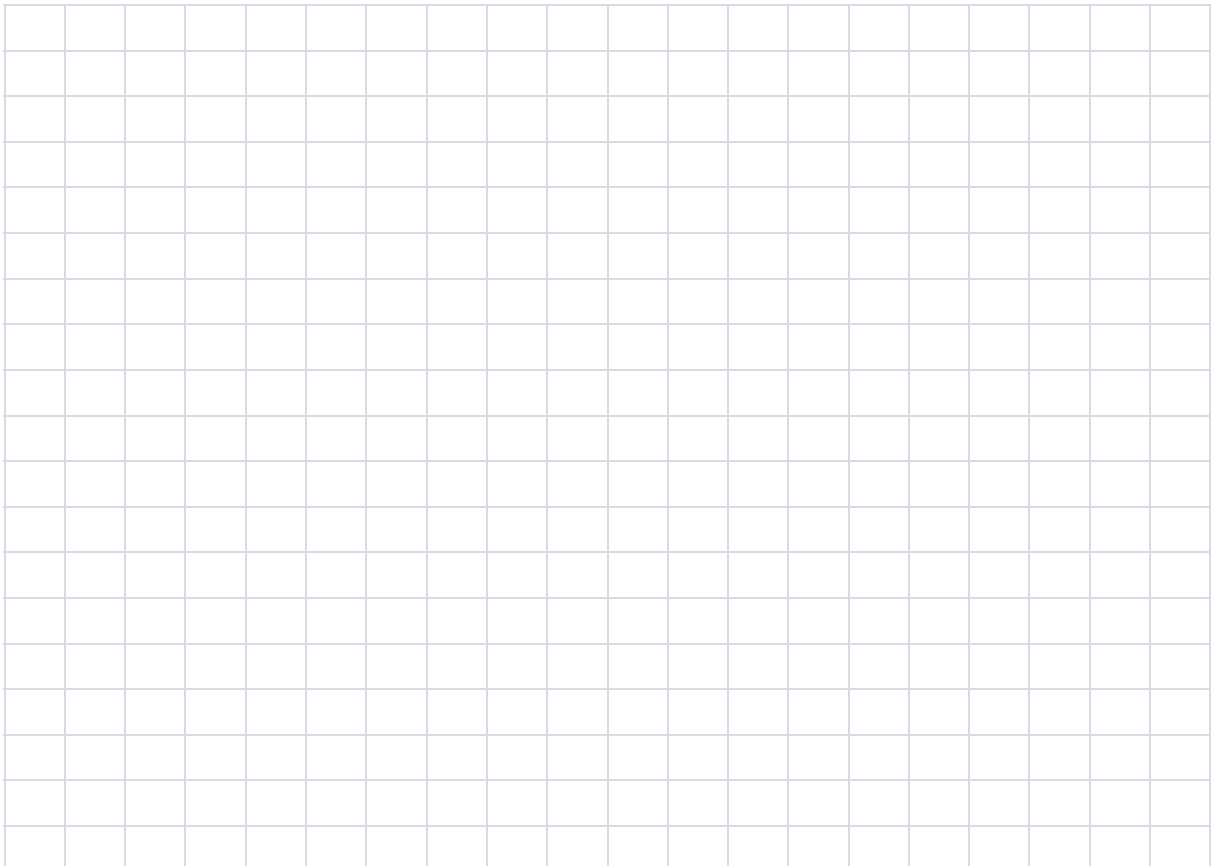
次頁に続く

以下に解答を記せ

1. 侵入警報システム機器一覧表

No	図記号	名 称	数量	備 考
1		【記入例】 警報制御盤	1	10 回線用
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

2. 侵入警報システム系統図



次頁に続く

3. 防犯カメラ方式の選択

使用するカメラ方式にチェックを入れよ。

チェック欄	方式
	ネットワークカメラ方式
	同軸アナログ HD 方式(AHD 方式など)

4. 防犯カメラ一覧表

カメラ番号	撮影対象場所 ^[注]	撮影目的	画角	必要機能
1	(記入例) 作業室1 入り口付近	入室者の人物の特定	A	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

注：撮影対象場所とは、カメラで撮影される場所いう。

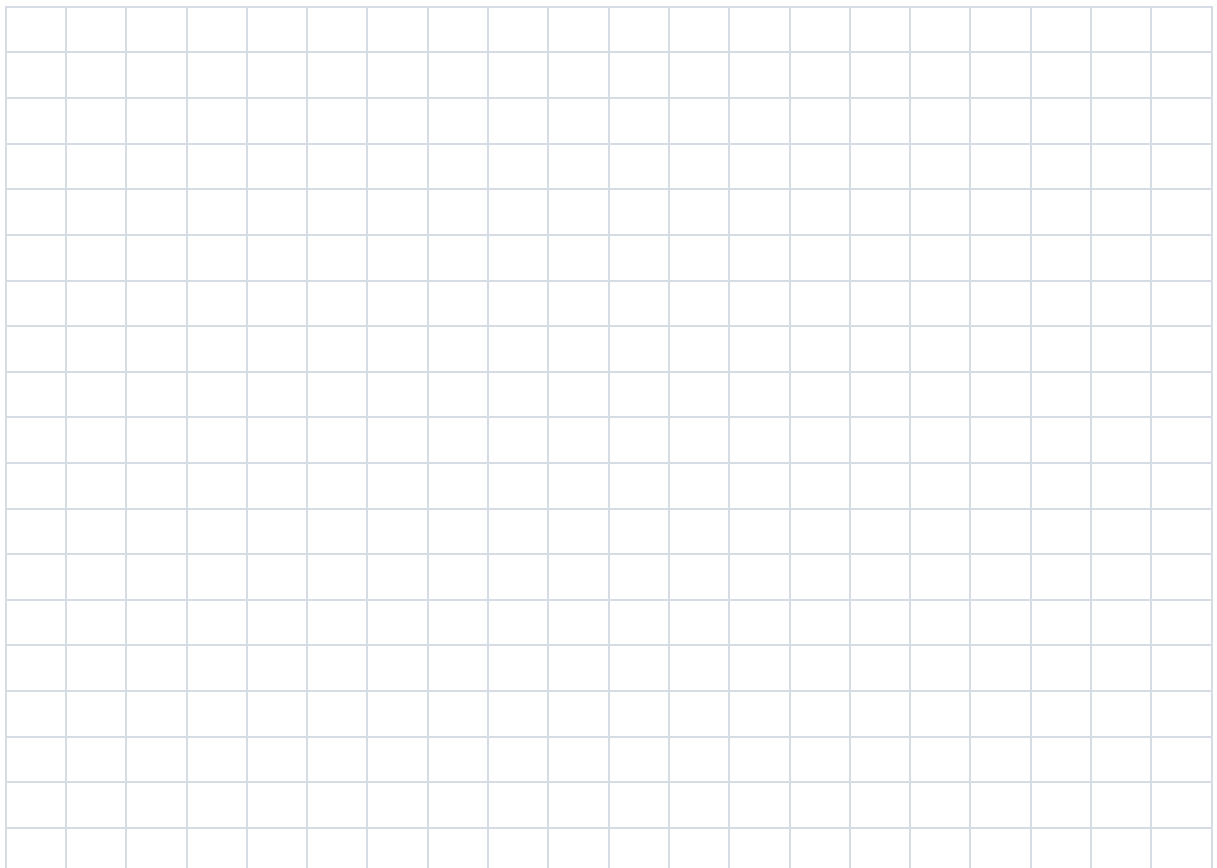
次頁に続く

5. 防犯カメラシステム機器一覧表

No	図記号	名 称	数量	備 考
1	<input type="checkbox"/> DR	(記入例) レコーダー	1	8回線用
2				
3				
4				
5				
6				
7				

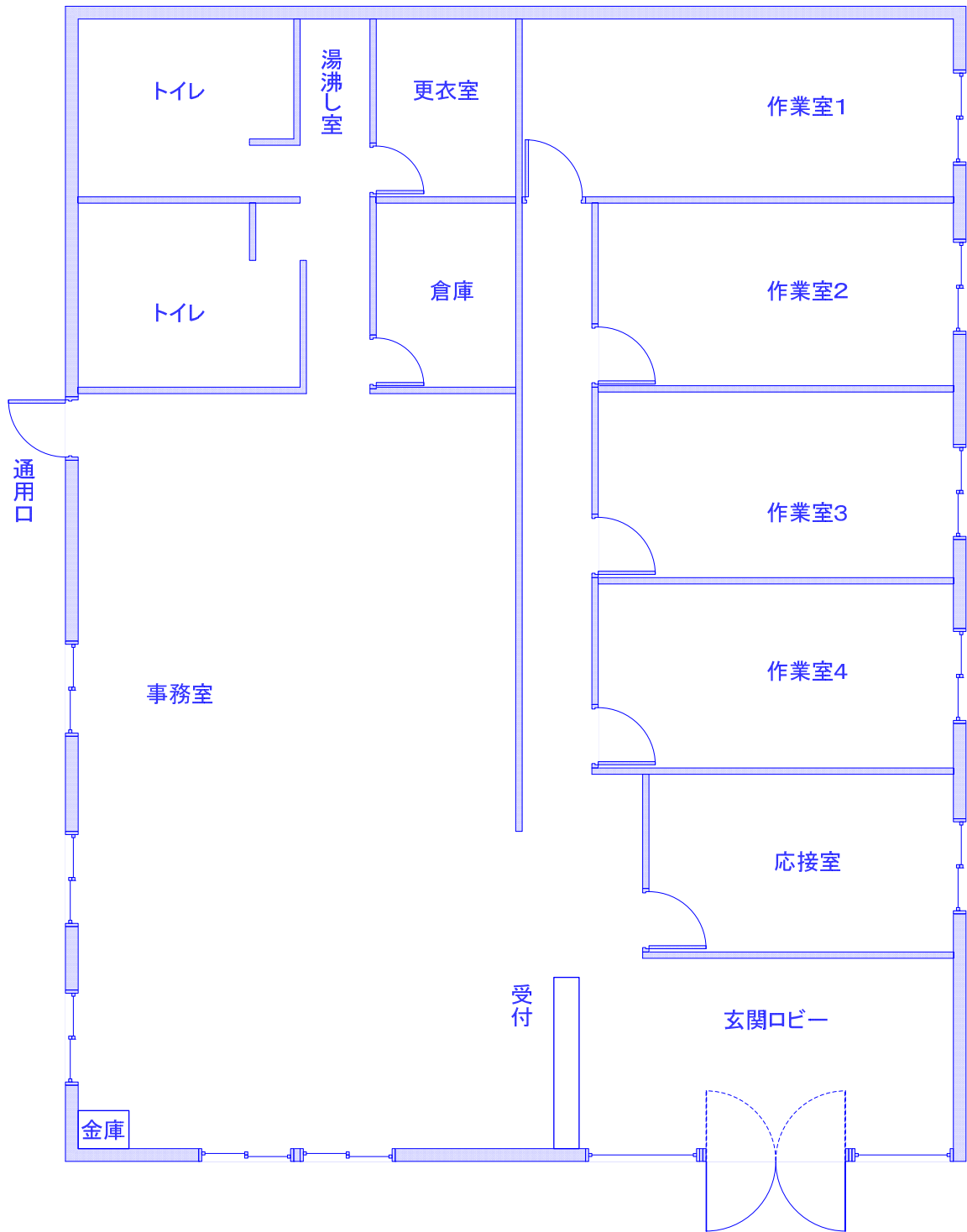
6. 防犯カメラシステム系統図

注：防犯カメラシステム機器一覧表の図記号を使用のこと。
カメラ番号を入れること。



次頁に続く

7. 全体設置図



C問題－3（総合防犯監査）

【事件概要】

〇〇食品△△工場で、冷凍食品への農薬（マラチオン）混入事件が発生した。

事件発覚後、△△県警の捜査の結果、工場内でピザライン担当だった契約社員の男が逮捕された。偽計業務妨害罪により、懲役3年6か月の判決が確定した。

報道によると男は、給与、ボーナスの査定や勤務評価に不満を抱き、製造ラインを停止させることで、会社や工場長を困らせてやろうと考え犯行に及んだという。小型の香水スプレー瓶に農薬を入れ、作業着の袖口やズボンの後ろポケット、靴下の中などに隠して工場内に持ち込み、数日に分けて製造ラインの冷凍製品へ農薬を吹き付けたとの供述であった。

この事件では、商品回収の対象が90品目、回収個数は630万個及び回収関連の特別損失は約50億円にのぼった。親会社の役員数名が引責辞任するとともに、△△工場は、長期間にわたり操業停止した。

犯人本人への刑罰に比べ、企業が受けた損害は甚大なものとなった。工場で働く百数十名の従業員の雇用を奪い、多くの取引会社の仕事を奪い、地域社会に多大な影響を及ぼし、食品業界を震撼させた。

何よりも、事件が内部犯行であったことは、食品業界に計り知れないショックを与えた。

【フードディフェンス（食品防御）】

この事件を受けて、多くの食品企業が品質管理・衛生管理の徹底のみならず、フードディフェンス（食品防御）対策を迫られることとなった。

フードディフェンス（食品防御）とは、故意、意図的な食品汚染や異物混入事件を予防する未然防止対策である。ちなみに、フードセーフティ（食品安全）とは、過失や意図せぬ食品汚染、異物混入事故を予防する食品衛生・品質管理の取り組みをいう。

【FフーズG工場】

E県にあるFフーズG工場では、早速、フードディフェンス（食品防御）・プロジェクトチームを立ち上げた。

工場長を責任者とし、品質保証部、製造部、総務部、人事部から横断的に担当者が選出された。

外部からは専門のコンサルタントとして、食品衛生・品質管理の専門家1名、犯罪抑止対策の専門家（総合防犯設備士）1名、事後対策・危機管理の専門家1名の計3名が招集され、第1回プロジェクト会議（キックオフ会議）が開催された。

2か月後に第2回プロジェクト会議が開催されることになり、早速、総合防犯設備士のJ氏は、犯罪抑止の立場から工場調査を行った。次回、第2回プロジェクト会議では、各専門家からの意見を聴取し全体像をまとめていく予定である。

【総合防犯設備士J氏】

総合防犯設備士J氏は、「監視ではなく環境づくり。環境づくりはルールづくり」というキャッチフレーズで企業文化に配慮したフードディフェンス基本方針を打ち立てている。

また、四つのフードディフェンス基本理念を提唱している。

1. フードディフェンスは、施設全体の防犯環境の基盤の上にある。
2. 食品工場におけるフードディフェンスは、アクセスコントロールを根幹とする。
3. アクセスコントロールは、セキュリティエリア毎に行い、入域許可者、不許可者を明確にする。
4. 全関係者及び全関係車両の動線を明確にする。

以下は、総合防犯設備士 J 氏の調査報告(現状確認)の概要である。

【調査報告概要】(現状確認)

施設周囲環境について

- ・東側は生産工場(他社)で、休日を除き、午前 8 時から午後 8 時まで稼働。
- ・北側は社宅及び分譲された住宅地で比較的閑静な地域。
- ・西側は排水路(水位 80cm 程度)で船舶の航行及び停泊はない。
- ・南側は国道で常時車両の通行があるが、歩行者は少ない。

施設概要について

- ・管理棟は、休日を除き、午前 8 時～午後 6 時まで就業。早出、残業有り。
- ・工場棟(A 棟、B 棟)は休日を除き、1 日 24 時間稼働。休日は入出荷を停止。
- ・エネルギー棟は、1 日 24 時間、年中稼働。
- ・守衛所は、24 時間就業。

第 1 警戒線(敷地部)について

- 敷地外周(G1-1)は、見通しの良いフェンス(H=2m)で囲われている。
- 敷地出入口(G1-2)は、南側、国道沿いに 1 か所。守衛所有り。
 - ・ ゲートバーは現在、使われていない。
(理由) ここで入退場のチェックを行うと、関係車両が国道で待機することとなり、渋滞等が発生し隣社会へ迷惑になるため配慮しているとのことであった。
 - ・ 守衛所では、基本的に来訪者のみ受け付け、ノートに記帳。入場カード等の発行はしていない。
 - ・ 来訪者以外は、事実上フリーパスで第 1 警戒線(G1-2)を通過している。
- 駐車場(G1-3)は、指定された場所はなく、各自、暗黙の了解で車両を止めている。
- 入場者について
 - ・ 従業員 車両、バイク、自転車
 - ・ 来訪者 車両、タクシー、ハイヤー
 - ・ 物流関係 冷凍冷蔵トラック、大型トラック
 - ・ 派遣社員 派遣会社のマイクロバス
 - ・ 社員食堂食材納入業者 冷凍冷蔵トラック、食材運搬車両
 - ・ ベンダーサービス 納入トラック
 - ・ 警備、清掃、設備関係 工事車両等

第 2 警戒線(建造物外周部)について

- 管理棟について
 - ・ エントランス部(G2-3)は自動ドア。その他の出入口部(G2-3)は、鍵管理(外側シリンダー、内側サムターン)されている。
 - ・ 厨房の西側、階段下の出入口は、社員食堂食材納入業者が、食材を厨房へ納品するときに使用。
- 工場棟について
 - ・ A 棟および B 棟ともに、エントランス部(G2-3)は制御されておらず、フリーパスで入退場できる。

次頁に続く

第3警戒線(建造物内部)について

- 管理棟について
 - ・ 1階事務室出入口部(G3-4)は、出入管理システムが導入されており、社員カード(非接触型 IC カード)で入室、退室はフリーとして運用している。許可された者だけが出入り可能。
 - ・ 2階研究室エリア内への出入りは、出入管理システムが導入されており、社員カード(非接触型 IC カード)で入室。退室はフリーとして運用している。エリア内の個室にも、出入管理システムが導入されており、入室・退室ともに社員カードの認証で出入りする。
- 工場棟 A 及び工場棟 B について
 - ・ 工場従事者(A棟、B棟共通)は、エントランス部に設置されたタイムカードで出退勤を管理する。
 - ・ 各部署専用の更衣室で着替え、工場内へ入域する前に部署のリーダーより衛生管理上のチェックを受ける。(健康チェック、正しく作業着を着用しているか確認、持ち物検査、粘着ローラー掛け、手洗い等)その後、エアシャワーを通過し工場内へ入域する。
 - ・ 工場内の各エリアは施錠しておらず、担当外の作業場へも自由に出入りできる。

第4警戒線(重要対象物)について

- 総合防犯設備士 J 氏は、フードディフェンスにおける第4警戒線を「重要防御エリア」と「防御エリア」に分けている。
 - ・ 「重要防御エリア」は、意図的な異物混入が成功しそうな雰囲気のあるエリアのこと。フードディフェンスの目的は、この「重要防御エリア」において犯罪の機会を与えないことだ。
 - ・ 「防御エリア」は、化学物質保管エリア(洗剤、殺虫剤、殺菌剤、試薬品等)及び鍵保管庫やセキュリティシステム制御装置のある部屋、コンピューターサーバー室等をいう。
- 「重要防御エリア」については以下のエリアを指定した。(次回会議で要確認検討)
 - ・ (工場棟)原料倉庫、材料検査室、中間品保管庫、下処理室、液体原料受け入れ口
 - ・ (G1-3)貯水槽
 - ・ 以上の「重要防御エリア」には、監視カメラが設置され、常時録画されている。
- 「防御エリア」は、以下のエリアを指定した。(次回会議で要確認検討)
 - ・ (管理棟)事務室エリア、(管理棟)研究室エリア、(工場棟)化学物質保管庫

以上が、総合防犯設備士 J 氏の調査報告の概要である。

濃厚な人間関係を礎にした家族的雰囲気が漂う典型的な地域社会特有の工場という印象を持った。

〇〇食品△△工場のフードディフェンス事件などは、まったく他人事であり、自分たちには関係ないという雰囲気が従業員の言動から伝わってくる。しかし経営者層は危機意識が強く、従業員との意識の違いを総合防犯設備士 J 氏は感じた。

【設問】

以下、解答欄の課題1～4に対し、総合防犯設備士 J 氏の立場で改善策とその理由を提案せよ。

(課題1)

フードディフェンスに対する経営者層と従業員の危機意識のギャップを埋めたい。改善策とその理由を提案せよ。

【解答欄】

(課題2)

第1警戒線、出入口(G1-2)において、守衛の業務が機能していない。「侵入阻止の意思表示」の観点から許可された者、許可された車両だけが入域できるよう、入退場の仕組みを見直したい。改善策とその理由を提案せよ。

【解答欄】

次頁に続く

(課題3)

工場棟 A 及び工場棟 B の第2警戒線、エントランス部(G2-3)において、誰もがフリーで入域できる現状を懸念する。アクセスコントロールの仕組みを構築したい。改善策とその理由を提案せよ。

【解答欄】

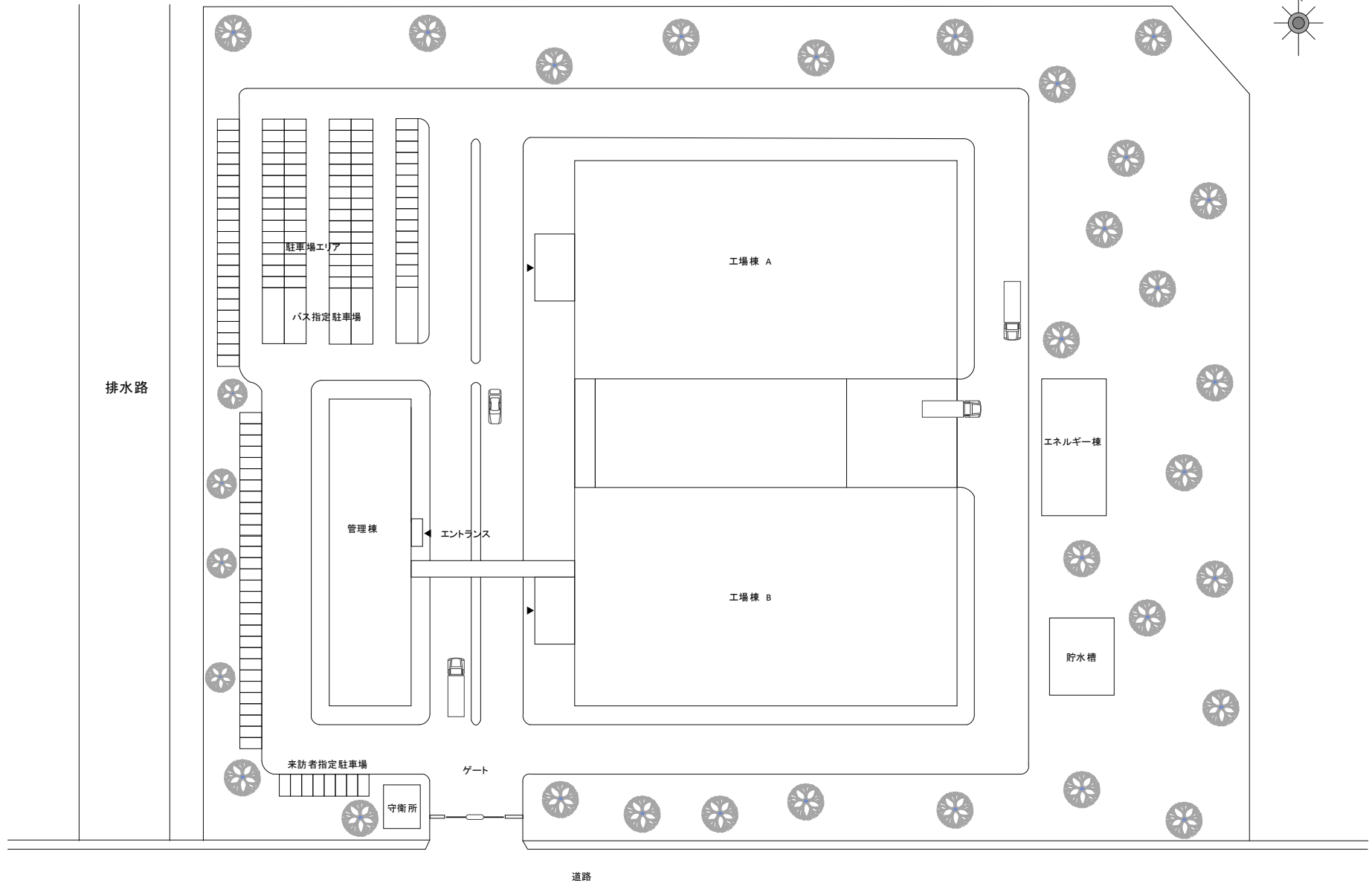
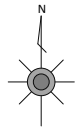
(課題4)

工場内の「重要防御エリア」について、許可された者だけが入域でき、不許可者は入域しづらい雰囲気をつくりたい。改善策とその理由を提案せよ。

【解答欄】

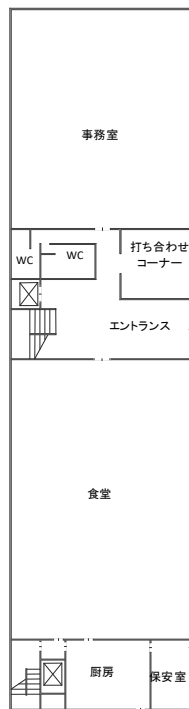
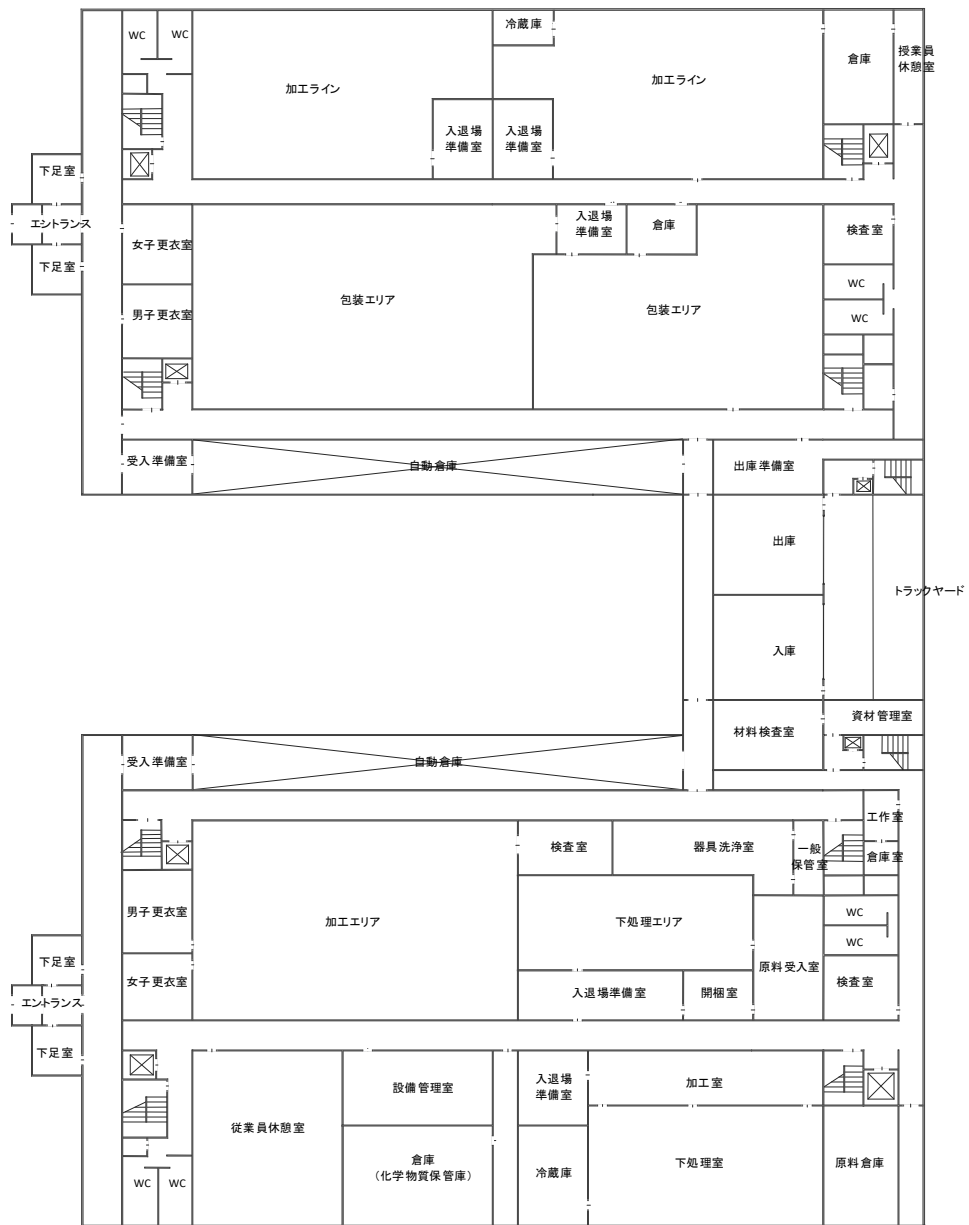
【C-3 問題 参照図面 1/3】

敷地



【C-3 問題 参照図面 2/3】

1 階



【C-3 問題 参照図面 3/3】

2階

